

新潟県

公民館月報 9

平成10年9月号 通巻第547号



表紙 親子ふれあい土器・ドキ
キャンプ
(黒川村公民館)

特集 地域づくりと公民館その2

視点 心の壁を脱し挑戦意欲を

ひろげ 期待される公民館

実践記録 相川ふるさと学園

サークル交流 RPG初心者の会“ほう”

(加茂市公民館)

荒川コール(荒川町公民館)

素顔拝見 五十嵐裕さん(白根市)

滝沢元一郎さん(津南町)

第39回関東甲信越静公民館研究大会

「今こそ見なおそう」

公民館の役割と可能性」をテーマに

千四百余名が河口湖町民会館に集う

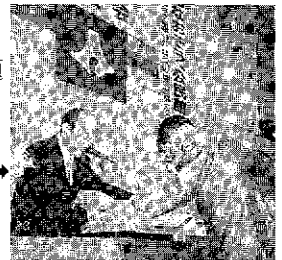
第39回大会は、去る8月27日(金)～28日(土)の二日間、山梨県公民館連絡協議会の主催により、雄大な富士山麓に広がる富士五湖の中心地河口湖町民体育館を主会場にして開催された。

参加総数千四百余名が一堂に会し「今こそ見なおそう、公民館の役割と可能性」をメインテーマに掲げ、16分科会に分かれて、熱心な研究討議が展開された。

今大会は、地方分権推進、規制緩和の推進等、近年公民館を取り巻く厳しい状況の中での開催であり、これらの背景を踏まえて各分科会とも、これからの公民館の在り方を求めている討議がなされた。

また、例年十二月の公振連総会で行われていた全公連・公民館優良職員並びに永年勤続職員の表彰が、大会第2日目の全体席上で行われた。詳細は、下掲

里あかどまり」で村づくりと題して赤泊村公民館が実践発表した。詳細は、特集欄を参照されたい。



優良職員表彰受章
江部忍様

平成10年度全国公民館

優良職員・永年勤続職員

本県関係受章者七名

優良職員表彰受章者

江部 忍様 (新潟市曾野木地区公民館長)

永年勤続職員表彰受章者

- 伊藤 高様 (新潟市鳥屋野地区公民館長)
- 岡 謙吾様 (小須戸町中央公民館前館長)
- 安原孝四郎様 (長岡市千手地区公民館前館長)
- 宮川 長様 (上越市立公民館職員)
- 山川 幸子様 (柏崎市中央地区公民館職員)
- 関由美子様 (柏崎市高浜公民館職員)



主催者挨拶 関公連会長持田利雄様



本県担当分科会 「地域づくりと公民館」 武部治雄様の発表

平成10年度
下越地区公民館関係役員研修会案内
【研修テーマ】 地域に親しまれる公民館をめざして
～心豊かな人づくり、地域づくり～

- 主催 下越地区公民館連絡協議会
- 共催 新潟県教育委員会・新潟県公民館連合会・西蒲原郡教育委員会連合会・燕市教育委員会
- 期日 平成10年10月1日(木)～10月2日(金)
- 会場 ①研修会場(開・閉会式・分科会・記念講話) →「岩室村公民館」
西蒲原郡岩室村大字西中360 ☎0256-32-4444
②情報交換会・宿泊会場 →「はてて大橋・館の湯」
西蒲原郡岩室村大字岩室340 甲 ☎0256 82-4125
- 参加者 公民館(地区館・分館を含む)の館長、副館長、館長准任、職員、及び公民館運営審議会委員等
- 日程

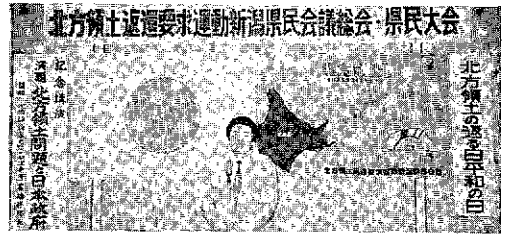
12:30	13:30	14:10	14:30	15:50	16:00	20:00
(第1日目) 10月1日(木)						
受付	開会式	移動	分科会	移動	情報交換会	
9:00	9:30	10:00	11:00	11:20	11:50	
(第2日目) 10月2日(金)						
移動	分科会の報告・論評	記念講話	閉会式	岩室村図書館見学	※研修会場と宿泊所の移動は主管地のマイクコバスで行います	

- 分科会 (質疑発表を並に研修)
 - ①第1分科会 青少年と公民館(青少年講座、子ども会育成、育成機関との連携など)
 - ②第2分科会 家庭教育と公民館(家庭教育学級・父視学級、子育て学級等との連携など)
 - ③第3分科会 高齢者と公民館(高齢者向け講座、各種グループ・ボランティア活動、各機関の連携など)
 - ④第4分科会 公民館運営審議会委員の役割(生涯学習時代の公民館の役割など)
 - ⑤第5分科会 初任者等研修(講義方式による公民館職員の資質向上に伴う研修)
- 下越教育事務所社会教育課長 羽田野 晃 様
- 演題「先達に教わったこと」
- 講師 前岩室村教育委員長 本間 泰 様
- 参加費 (資料代等) 2,000円(研修会に参加する人全員)
宿泊+情報交換会費 14,000円(宿泊費には朝食を含む)
情報交換会費 9,000円(情報交換会に参加者のみ)
- ※ なお、9月10日(月)以降の取り消しについては、資料代及び宿泊料等のキャンセル料を負担していただきます。
- 申込み 8月25日(木)までに別紙参加申込書により、各市町村分を取りまとめた事務局まで申し込み願います。FAXによる申し込みも受付です。
- ※ また、参加費は下記の口座に9月1日(火)までに振り込んで下さい。

第四銀行大野支店 普通預金口座 1247371
西蒲原公民館等連絡協議会 会長 山際新一郎

北方領土返還要求運動県民会議

平成10.8.1(土) 新潟市白山会館



近藤会長の開会あいさつ

平成10年度北方領土返還要求運動新潟県民会議の総会・県民大会が、去る8月1日(土)新潟市白山会館で開催された。

議長は、平成9年度事業報告並びに決算について、平成10年度事業計画並びに予算について、そして役員の変更について提案され、原案どおり可決承認された。

今年度の特徴は、97年11月のクラスノヤルスタ会談、そして98年4月の川奈における日ロ首脳会談により、実質的

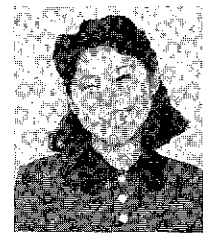
な前進を図る方向性が出てきたことにより、明るい雰囲気の中での県民大会であった。

記念講演では、「北方領土問題と日本政府」と題して、政治評論家の高橋祥起様が、早大の後輩である小淵首相とのエピソードを紹介しながら、身近な問題として提起された。

なお、9月12日(土)13日(日)に根室市で開催される青年・婦人フォーラムには、当連合会より新潟市坂井輪地区公民館の小田雅子さんが参加予定としている。

期待される公民館

見附市新潟公民館運営委員 三沢妃佐江



我が家の息子達
の息子達
(高一・高二)も
夏の補習
授業が終

今、学校ではいじめと不登校
が大きな問題になっているが、
その背景には、自分の存在を肯
定できないでいる多くの子供
達、親に愛されているという実
感がないため自分を愛せない、
自分を愛せないからいじめ
ること何んの罪悪感もな
い子供達が多い、という現
状があると思う。私は、思
春期における子供達の心の
表れは幼児期に根ざしてい
るものが多い、と常々思っ
ている。幼児期に親が愛情
いっぱい示し、しっかりと
心に届くように話をして
育てたならば、思春期にき
て大きな問題が出てこない
のではないかと、思っている。
幼児期から、我が子を
どう育てていいかわからな
い親が驚く程多くなっている現
状をしっかりとらえて、地域ぐ
るみで、気づかずに自然体で子
育てに係ることが大切だと思
う。

視点

まちを活
性化させ輝
かせるには、
二つの手法
がある。

一つは、
住民のニー
ズ志向を調
査し、その需要に
ていく方法と、もう
一つは、需要が
ないところ
に、新しい需要
を掘り起こし、そ
れに応える

心の壁を脱し挑戦意欲を

荒木 快 英

で、まさに、現在のベ
ンチャー企業と符合す
る。リスクもあるが、
スケールの大きさは計
り知れないものがある。
需要を創り出すとい
うことは、ゼロからの

め、生きる目標をどこ
においているかを適確
に把握する能力である。
昨年発表されたNHK
の「全国県民意識調
査」によると、本県の
県民性は、新しいこと

スタートであるから、
相当の問題意識と実行
力を持ったリーダーが
必要である。別な角度
からそのリーダーをみ
ると、「環境変化を予測
する」と同時に、今の
住民が何に価値を求

を積極的にとり入れる
意識が低く、人間関係
の連帯意識もますます
うすれつつあるという
結果が出ている。

公民館活動でも今ま
でとは違った役割と能
力が求められてくるは
ずである。「脱皮しない
蛇は死ぬ」といわれて
いるが、使命感と姿形
に捕われない挑戦意欲
をもって脱皮してい
かないと、現在の顧客
からも省りみられなくな
っていくかもしれない。
(個人材育成さくらん
ど財団 桜藩塾 塾
長)

ひるば

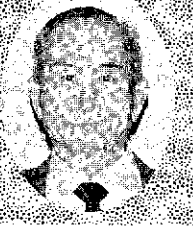
このような中で、地域のセン
ターとしての公民館の存在に期
待しているものである。



と公民館 その2

組む赤泊公民館の実践 公民館研究大会より 事例発表の概要報告

館長 武部 治雄



「蝶の舞」平・4・3・29

一、赤泊村の概況

佐渡ヶ島の南部に位置する赤泊村は、佐渡海峡に臨み、越佐の最短距離およそ約40kmを隔て本州と対峙している。江戸時代は、佐渡奉行の渡海港として栄えた港町である。

海岸線は約17kmに及び、村の総面積は52・2km²で、東南に傾斜した丘陵地がほとんどである。総面積の65%は山林に覆われ、耕地はわずか13%である。近年、県道及び村道・農道が整備され、舗装率も上がっている。温暖な気候に恵まれ、農林水産業を中心とした佐渡島内で最も

小さな村で、平成10年4月末の人口は三、三九九名である。また、65歳以上の高齢者の割合は32%を超えており、過疎化と高齢化が進んでいる。

そんな中で、生涯学習の中核的施設としての公民館は、人づくり・地域づくりに果たす役割を再認識し、村民に親しまれる施設として活動の充実をめざしている。

二、「民話の里 あかどまり」

村では平成元年、村民から募集した「ふるさと創生事業」の提案の中から、「民話の里あかどまり」づくりに取り組むことになった。

民話はただ単に懐古的な昔語りでなく、先人の村人が長い年月をかけ、工夫してきた村の暮らしや生きていくための戒め、夢などの知恵を代弁してくれるものである。それは地域住民共有的の精神的文化遺産でもあり、忘れ去られようとしている民話には、ほのぼのとしたぬくもりがある。民話は子ども心を豊かにし、郷土愛を培うとともに、ふるさとを語る人間に育てる有効な素材であり、これらの民話を子々孫々の時代まで語り継ぐことが、今日の我々に課せられた責務である。

(一) 村の取組み

①民話の絵本7冊、一般向け読み物1冊を平成元年から平成5年にかけて刊行し、村内全戸へ無償配布。Ⅱ伝承と保存、全村民



「酒呑み小天狗」平. 5. 3. 7

の共有Ⅱ

文は赤泊中学校教諭、挿し絵は村内在住者又は村出身の画家8氏、英訳は羽茂高校赤泊分校教諭が担当。

②民話の主人公の銅像建立。

Ⅱ住民の心と糧を語り継ぎ、観光にも一役Ⅱ

○八専三郎・土用五郎(港史蹟公園内) ○爪の沢喋ねえ(爪の沢キャンプ場内)

○泳来母牛(大杉海岸) ○戦い道騎馬武者の像(戦い道公園内) 4基

(二) 公民館の取組み

①民話語り部教室開設

公民館事業として平成3年12月に開設し、月2回の夜間2時間半程度でスタートした。以降3年間は公民館講座として取り組み、この間、民話の基礎や現地巡りをし、学習した。

現在は、自主グループ「民話語り部の会」として活発に活動しており、小中学校の体験学習、老人ホームの慰問や文化祭、民話劇の中で発表している。

②自主グループの育成、援助
「民話語り部の会」の他にも、昭和63年に結成されたママさんコーラスグループ「リトルかたつむり」や平成3年に結成された「御番所太鼓の会」等は、公民館講座がきっかけで自主グループとして活動を続けている

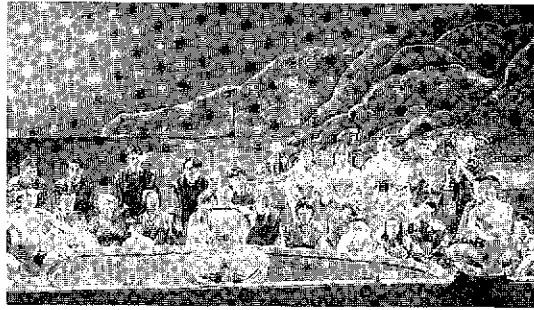
団体であり、これらの団体は、活動の中で民話にちなんだ創作活動にも取り組んでいる。公民館では、自主グループに移行後の5年間は、若干の財政援助をしてきた。



「たたずが浜」平. 6. 3. 6

三、創作民話劇の公演Ⅱ赤泊演劇研究会Ⅱ

平成4年に有志により創作民話劇「蝶の舞」を初演。「民話の里 あかどまり」を充実・発展させようと、自主的に「赤泊演劇研究会」が結成され本格的な活動に入る。会員は職業も多様な10代から60代の男性38名、女性22名の60名である。公民館を含めた行政サイドは、公演経費の補助などの支援により、これ



「八専三郎・土用五郎」平. 7. 4. 28

特集 地域づくり

創作民話劇で村づくりに取 第39回関東甲信越静 第6分科会実践

佐渡郡赤泊村公民館

までに上演した創作民話劇と、劇に参加したグループは次のとおりである。

○平成5年「酒呑み小天狗」
大獅子、子獅子、鬼太鼓組。
○平成6年「たたずが浜」
民話語り部の会、ママさんコーラス、御番所太鼓の会。

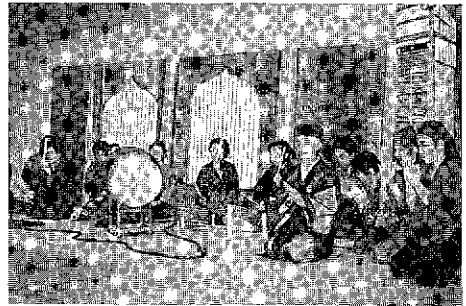
○平成7年「八専三郎・土用五郎」
小学生、高校生、ママさんコーラス、御番所太鼓の会等。
※ スタッフ、キャスト総勢三五〇名(村民の1割)の公演の模様が、「村人つどいて」のタイトルでNHK BS2により全国に放映された。

○平成8年「東光寺の禅達」
小学生、ママさんコーラス、御番所太鼓の会、地元真言組。
○平成9年「太郎杉」
小学生、民話語り部の会、ママさんコーラス、御番所太鼓の会。

○平成10年「腰細城の殿様」
小学生、民話語り部の会、ママさんコーラス、御番所太鼓の会、詩吟クラブ、剣舞なぎさ会、やまびこ会。

四、第9回全国生涯学習フェスティバルまなびピア新潟97佐渡会場で公演(H9、10、12)

公民館が事務局となり創作民話劇「たたずが浜」を上演。スタッフ・キャスト一二五名が参



「東光寺の禅達」平. 8. 3. 10

加。会場は、赤泊村から30km離れた佐渡中央部にあり、初めての村外公演となった。

五、評価 村内外の声より

○幼児から高齢者までの大勢の村民を巻き込んで、世代間交流が自然にはかかれている。

○自分達の村は自分達でつくるんだ、という意識改革がみられる。行動を起こすのに腰があげやすくなった。人づくりは村づくり

○素晴らしいエネルギーだ。忘れかけていた方言の魅力を引き出してくれた。観客の表情がやわらいで、心あたたかいムードにつつまれた。

○「今、赤泊村がおもしろい」村に生きる自信につながる。演

ずるということは、村に生きる存在として価値あるものである。

六、課題

○公演が村の行事として定着したので、内容の充実とレベルアップが望まれる。また、民話劇の他に、村の課題をテーマにした劇も考えられる。

○新人の発掘

七、まとめ

過疎化・高齢化であっても、それを逆手に取れば希望につながる。多くの村人を巻き込み、生まれ住む土地に真に惚れ込み、歩き始める者にも明るい未来は拓ける(赤泊村長のことば)

◆分科会裏方記

例年この分科会の参加者は50名程度ということで私共関係者は気楽に受け止めていたが、締切後大会事務局からの200名という数字を聞き及び、びっくりという表現を通り越してしまった。急ぎよ、会長・発表者・司会・助言者と連絡をとり合い、とくに赤泊村公民館からは、その態勢を組み整えていただいた。多くの参加者から広く理解を深めていただく、というプラス



「太郎杉」平. 9. 3. 9

思考の下、ビデオ放映(当日は大型TV4台使用)、パネル展示(昨年の全国生涯学習フェスティバルで作成したパネル使用)、発表資料の作成配布(大会要項記載資料の外に、写真入り22Pにわたるもの)等、万全の態勢で臨んだ。
流れを明確にしての司会進行脚本家でもあり、ドラマチックに感情を込めてのすばらしい発表、過去・現在・未来を見通したの適切な助言と相まって、参加者に大きな感動を与えて無事終了した。
ここまで準備万端整え、当日の発表に臨まれた赤泊村公民館関係者に敬意を表したい。(鈴木記)

実践記録シリーズ(28)

相川ふるさと学園 — 歴史・史跡説明員養成講座 — 自分たちの手で、自分たちの、まちづくり

相川町教育委員会



新規事業として、5月から相川ふるさと学園を開校しました。町民参加による生涯学習の推進と町づくりを目的としたものです。この内容については、町民の方から学習推進委員(ボランティアスタッフ)を募り、個人登録していただき、自分たちの手で各種講習・講座、イベントなどを企画立案し運営・実施する、というものです。

もちろんボランティアの方のみではなく、有識者などの生涯学習専門員や社会教育課職員が助言と支援して行います。

ボランティア活動といっても活動範囲は幅広く、また企画・交渉・実施などの幅広い範囲で携わっていくことになるため、企画した内容がどのように実施されるのか、その過程を体験すること及び、具体的な実施による達成感、ボランティアスタッフの方たちにとって大変有意義

なものになると考えられます。現在13名の方が個人登録していますが、学習推進委員の方たちに、肩の力を抜き楽しみながらまちづくりを進めてもらいたい、と思います。

相川ふるさと学園の一環として、5月〜7月まで6回にわたって、歴史・史跡説明員養成講座を開講しました。相川は、金山で知られるように非常に歴史深い町であり、佐渡奉行所跡を代表とする史跡や寺が多く、国や県の文化財指定を受けている場所も多数残っています。しかし、このような由緒ある歴史も、町民には案外知られていない、語ることのできる先生も少ないように思われます。このような観点から今回、郷土において歴史の指導者の立場に立てる人材養成を目指し、また、ボランティアの観光ガイドの育成も兼ねて開講しました。

学習内容については、相川金山が発見される前(中世)から、江戸時代後期の相川の歴史と文化財に指定されている史跡を中心に進めていきました。対象は初級者向けで、なるべく平易な内容に努め、学習内容を一冊のテキストにまとめて参考資料



史跡めぐり現地演習

平成10年度歴史・史跡説明員養成講座 学習計画

学習内容				
回	講師	分野	学習内容	備考
1	佐藤俊策先生	佐渡奉行所	奉行所・金銀輸送の道	テキスト・資料
2	佐藤利夫先生	中世の佐渡	中世の佐渡	テキスト・資料
3	大野保二先生	金山関係	金山の歴史・精錬等	資料
4	本間寅雄先生	風俗関係	概説 相川を歩く	テキスト・資料
5	本間寅雄先生	史跡巡り	寺社巡り	
6	佐藤利夫・本間寅雄先生	史跡巡り	寺社・史跡	

料と併せて講義を行いました。6回のうち初めの4回が講義後の2回が史跡巡りを行いました。講師の方は、すべて相川町在住で、遺跡発掘調査員、郷土史家、元博物館長、(株)ゴールデン佐渡の相談役など、島内外で幅広く活躍されています。講座後の講座生のアンケートから見ると、「歴史の町を再認識した」「相川金山の繁栄の跡がよくわかった」「現地での学習が大変よかった」「講師陣が大変よかったです」という喜びの声が多く、講義も熱心に聞いていて大変好評だったと思います。講座生の数は約30名で、その年代は20歳代から上は80歳代までで、60歳代が中心となっております。高齢者が

多い。女性の受講生が約4割を占めているが、全体的に若い世代の参加が少ない。この講座を通して、まず第1に町民の方に郷土の由緒ある歴史に興味をもっていただきたい、第2に興味をもたれたら学習し、後世に語り継がれるようになっていただきたい、と希望しています。最近、佐渡に来る観光客が低迷している中、受講生が観光ガイドとして育ち、観光客が来た時に案内し、相川のよさ、佐渡のよさを知ってもらい、リピーターとなれば、観光おこし、町おこしにつながるのではないかと、思っています。(社会教育課主事 寺野俊夫)

サークル交流

RPG初心者の会

加茂市「ほう」

今流行している、トレーディングカードゲームの遊びと交流の場として活動をしています。私たちの会の主な活動は、会員に遊びの場所を提供する他に、大会の運営企画もあります。サークルは固定メンバーはいませんが、自由に入出入り可能で、常に20人前後の人達が楽しく遊んだりカードの交換をしたり、カードについて熱く語っており



トレーディングカードゲーム

とは、カードとカードを交換しあい、対戦するものです。昔流行したメンコ遊びに似ているところがあります。メンコにも交換や対戦があります。

このサークルは、カードゲームで遊ぶだけではなく、同じ趣味をとおして人との出会いや、マナーの育成にも力を入れています。他の人と対戦する時は、相手に失礼のないようにと。

発足してまだ1年たつていませんが、つねに「遊び」についてカードを通して考えてゆきたいと思っています。

(RPG初心者の会「ほう」)

坂上 忍(記)

仲間の輪とハーモニを大切に

荒川町女声コーラス

「荒川コール」

十年前「合唱をしませんか」の呼びかけがあり約三十人が集まりました。公民館のオルガンと子供達の騒音の中で歌っているうち、一カ月後には男性一人、女性八人が残りました。

この九人で「荒川コール」が発足、その後の十年の間には、ピアノも入りメンバーの増減、



交替が ありま したが 毎月二 四回 の公民 館での 練習と 指導し て下さ る先生 は今も 変わる ことな く統一 していま す。

発足して三年目からは毎年、「村上市民合唱の集い」に参加

郡市内のコーラスグループとの交流も始まりました。最近はその芸能祭、朝日村村民合唱祭の参加も恒例となり、練習の励みになっていきます。昨年は村上地区初めての「第九演奏会」に参加し、生オケストラと百三十人の大合唱に感動しました。

「継続は力」と、熱心に指導して下さいる先生に恵まれたことに感謝しつつ、歌う仲間の輪の広がりを願っています。ハーモニを大切に楽しく歌い続けたいです。

(荒川コール 代表 新野久美子 記)

白根市中央公民館

主事 五十嵐裕 さん

平成七年四月に採用となったが、農政課勤務となり、大変厳しいと言われていた転作の仕事を担当した。持ち前の明るさと人なつっこさで農家の人たちに人気があり、きつい仕事もこなしていたと聞く。

今年四月より公民館勤務となったが、彼を待っていたのは、



「公民館だ よりの発 行」お花見 ウォーク」 「音楽浴」

素顔 拝見

「ソフトボール大会」などなど目白押しのお仕事であった。中央公民館を兼務し、二つの地区公民館を担当している主事達は多忙である。土日、夜あるいは祭日まで事業が組まれ、農政課とは違ったきびしさに「土日は休みたいですね!!」と、つい愚痴が。でも、持ち前の明るさと人なつっこさで頑張っている。

そんな彼、「十月に結婚」します。その日を中心待ちに頑張っている彼にご声援と祝福をお願いします。(お祝品受付中)

(白根市中央公民館 船越正徳 記)

津南町公民館

係長 滝沢元一郎 さん

滝沢元一郎。通称「元さん」。御年四十六。スリーサイズは、上から86・79・86。おなかの出っばりもなく、とても優秀な中年体型です。

趣味は実に多彩。教え上げればきりがありませんが、書道・そば作り・野球・アウトドア・アルペンスキー・カラオケ等々とにかく芸達者なのです。とくにカラオケは、純粋無垢な若者である私にはとても歌えない迷曲ばかりを歌います。

四月に公民館に異動してきま



した。多種多様な人材の宝庫である私たちの職場に、ま

た一人貴重な人材が迷い込んできました。さっそく、手作りのそばを私たちに味わわせてくれました。「係長、今度はもっとたくさん作ってください。」とみんなが言っています。

人柄が顔からにじみ出ている「元さん」。お酒が入ると、ますます絶好調になります。

(同公民館派遣社会教育主事 大島一英 記)

恵贈資料紹介

一九九八・三(平成9年度)

光嶺百年杉 第25集

津南町 公民館
津南町老人クラブ連合会



「光嶺百年杉」長寿をめざす老人クラブの文集にふさわしい、びったりの標題と感じ入りました。

巻頭で、各自の顔と心の相関性に触れられながら、「笑顔でお会いしましょう」と語りかけておられる風巻館長さんのおことばが、公民館人としての姿勢を示しておられます。

恵贈資料紹介

わたくしたちの

西中通公民館

柏崎市西中通公民館



また、ドイツの作家トーマスマンのことばを引用しながら、往生訓を述べられておられる内

山さんの文にも引かれました。内容的には旅行記、戦時・生活体験記、短歌、俳句等で構成されておりませんが、もし欲をいうならば、それぞれの分野・領毎に編集されるならば、もっと読み易くなるようです。そしてさらに、『秋山紀行』の粉豆腐にふれられた滝沢さんのような、民俗学的な語り伝えも欲しいものです。



平成7年、西中通コミセン20周年記念「西中通のあゆみ」が大好評という関連で、今回「わたくしたちの西中通物語」が発刊、と長瀬良治館長さんが巻頭に述べておられます。表紙の版画「刈羽三山」は、90年3月、日吉小学校児童連達の版画集「四季の詩」掲載の中の一作品だそうです。内容は、私たちの楨原小、日

吉校の誕生と生い立ち、楨原村・日吉村の誕生、西中通村の誕生、越後線の開通と西中通駅、刈羽節成きゅうりと「刈羽桃」等々から構成されておりです。編集後記には、公民館人の先達徳間助夫さんのお名前が記載されているのには、大変懐かしく感ずるとともに、また大変びっくりいたしました。

月刊社会教育9月号に

「新任職員のための公民館ガイド」紹介

当会「公民館月報」5月号で「新任職員のための公民館ガイド」を特集しましたが、標記月刊社会教育9月号、各地からの情報」欄に、執筆者の見附市中央公民館長北村弘文様の強調ポイント部分が引用紹介されておりました。

主なポイントを抜粋し紹介しますと、

・「公民館職員は、市民との信頼関係によって初めて活動が可能。まず最初に確認する必要がある。」

・「公民館主事は、身近な生活課題や地域課題を素材とし、背後に広がる社会の動向をも視野に入れ、事業化し、市民へ学習機会として提供したり、相談に応

表紙解説

親子ふれあい

土器・ドキ・キャンプ
今年の8月8日・9日に下越スポーツハウス付属キャンプ場で、村内の親子を対象に行われた縄文体験キャンプ
(黒川村公民館)

じる必要……」
・そして、最後に「公民館に自信と誇りを」とし、「……地域の再生、日本再生の公民館の精神」を大事に、と結んでおります。

あとがき

◇8・4下越・新潟地区水害並びにその後の上越地区の水害に心よりお見舞い申し上げます。
県公連の方も、会長が床下、事務局長が床上まで浸水、その復旧、事後処理に忙殺されました。
◇関プロ大会山出発前、分科会発表のことで大会事務局と赤泊村公民館との連絡調整、月報9月号の原稿渡し等、いつもぎりぎりのところまで対応に迫られております。
(鈴木 記)

発行所 新潟県公民館連合会

〒951-8053

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 今井昭友

編集人 事務局長 鈴木友夫

【定価1部150円 年共 4年 1,800円】